

ウェルビーイングと環境基本計画

～指標を使って町の資源(可能性)を探る～

2024年8月6日
まちづくり政策課企画調整係

■「ウェルビーイング」に触れる

- ・ ウェルビーイングとは？
- ・ なぜ今、ウェルビーイングなのか？
- ・ ウェルビーイング指標(地域幸福度指標)とはどんなもの？
- ・ 環境基本計画に関連しそうな指標因子はどんなもの？

— ウエルビーイングとは？

ひとことで言うと、**幸せ実感。**

WHOでは健康を
「身体的・精神的・社会的にウェルビーイングな状態」と定義
↓
ウェルビーイングとは、身体的・精神的・社会的に良好な状態にある
実感する幸せ。継続的に。（cf:ハッピーはもっと短期的な感情）

ウェルビーイングの対極にある概念は？

望まない孤独・孤立

— なぜ、いまウェルビーイングなのか？

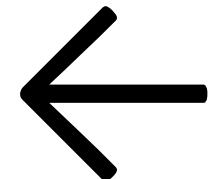
世界的な流れとして

- ① 物質的な豊かさの飽和・成熟化
→ GDPに代わる新たな指標の必要性
- ② 地球環境問題への対応
→ 経済成長のみを目標に掲げる社会への疑問
(SDGsも何のためだっけ?)



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です



(° O °) !

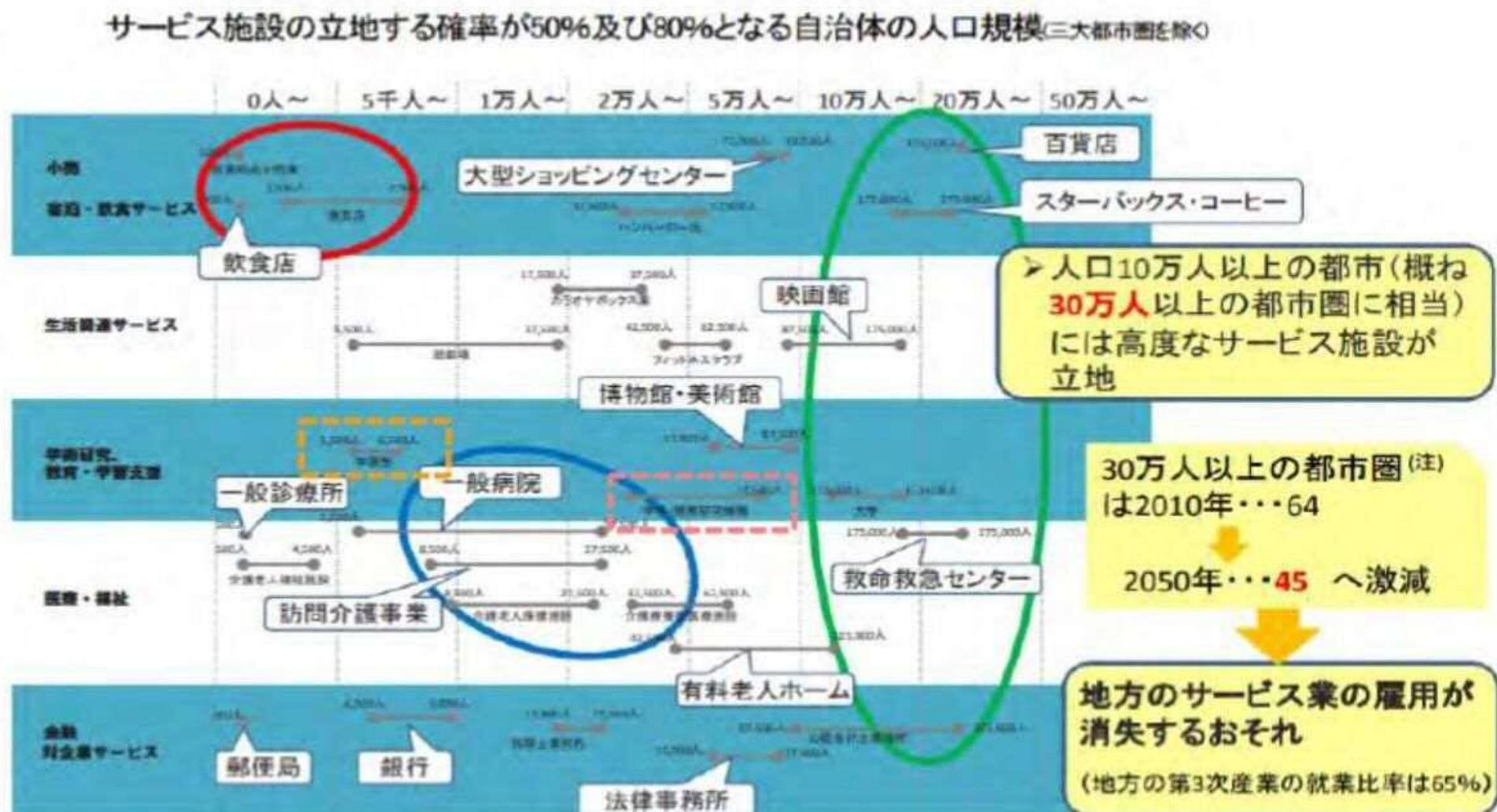
— なぜ、いまウェルビーイングなのか？

国内動向として

③ 人口減少社会への対応

→「持続可能な環境・社会・経済」、
「心ゆたかな暮らし」、
「地域発の産業革新」の3本柱を掲げる
デジタル田園都市国家構想

- 人材の流出が続ければ、地方から暮らしを支えるサービス業が消滅し、暮らせない地域が増えていく恐れ。



- 人口増加局面では、バス停に来るバスを待つなど、需要が供給に合わせる。しかし、人口減少局面では、バスが顧客の都合に合わせて動くなど、供給が需要に合わせることになる。
- その実現には、需給をリアルタイムで把握し、供給側の意思の確認を待たずに先にものやサービスを動かす、**デジタル基盤とデータの共有が必ず必要**となる。

人口増加局面

(国内消費拡大局面)

需要が供給に合わせる経済

交通	乗客がバス停で時刻表のバスを待つ
労働	雇用先の就業ルールに従業員が合わせる
買い物	消費者が売っている店まで買いに行く
教育	特定の学校・カリキュラムに生徒が集まる
医療	特定の医療機関とかかりつけ医に通う
物流	供給者側の指示で物流が動く
行政サービス	市役所に行って、手続きを申請する

- 人口も市場も増えるなら、供給からバリエーションを増やして、積極的に需給を調整できる。
(バスの本数が増える局面なら、調整のしようもある。)
→ 供給が需要に働きかけ、需要がそれに合わせる

人口減少局面

(国内消費縮小局面)

供給が需要に合わせる経済

交通	迎えの車が乗客の都合に合わせる
労働	従業員の暮らしに就業ルールが合わせる
買い物	商品が消費者の家に届けられる
教育	生徒の側が学校・カリキュラムを選ぶ
医療	患者が医療機関と医師を選ぶ
物流	重要動向に合わせ自動的に物が動く
行政サービス	通知を受け取り、手続きが自動的に行われる

- 人口も市場も減る局面では、供給はバリエーションを削るしかなく、重要なバリエーションにあわせようがない。
(バスの本数が減る局面では、需要にあわせようがない。)
→ 需要が供給に働きかけ、供給がそれに合わせる 3

- 人口増加局面では、バス停に来るバスを待つなど、需要が供給に合わせる。しかし、人口減少局面では、バスが顧客の都合に合わせて動くなど、供給が需要に合わせることになる。
- その実現には、需給をリアルタイムで把握し、供給側の意思の確認を待たずに先にものやサービスを動かす、**デジタル基盤とデータの共有が必ず必要**となる。

人口増加局面

(国内消費拡大局面)

需要が供給に合わせる経済

交通

乗客がバス停で時刻表のバスを待つ

人口減少局面

(国内消費縮小局面)

供給が需要に合わせる経済

迎えの車が乗客の都合に合わせる

人口減少局面であっても個人個人の幸せ実感を高めたい
そのためのサービス提供を維持したい
あるいは新たな施策を展開したい
でも人的リソース(担い手)の減少は必然

行



1つ1つの事業の確度を高めていくことが必要

→ 供給が需要に働きかけ、需要がそれに合わせる

→ 需要が供給に働きかけ、供給がそれに合わせる 3

— なぜ、いまウェルビーイングなのか？

地方公共団体として

- ④ 社会科学的アプローチを得たうえで原点に立ち返る
→ 自治体の至上命題

「**住民の福祉の増進**を図ること(地方自治法第1条の2)
でも、今まで出来そうで出来なかつた**幸せの測定**

(人類は紀元前3世紀アリストテレスの時代から幸せを問うてきた。)

— ウエルビーイング指標とはどんなもの？ (地域幸福度指標)

ひとことで言うと、個人の幸せ実感を測定する指標。

- ◎ デジタル田園都市国家構想を展開する中でデジタル庁が開発
- ◎ 心ゆたかな暮らし × 持続可能な環境・社会・経済
(Well-being) (Sustainability)
- ◎ 地域における幸福度・生活満足度を計る4つの設問
生活環境・地域の人間関係・自分らしい生き方の3つの因子群
※ 3つの因子群は合計24のカテゴリーに細分して可視化

— ウエルビーイング指標とはどんなもの？

松川町として

- ◎ 総合計画ほか各種行政計画の策定に際して、今後のまちづくりを議論する際の**共通言語**(価値観や目的のすり合わせ)として活用したい。しかも「幸福」という**ポジティブな価値に基づき議論**ができる。
- ◎ 課題発見～政策評価まで活用できる。



令和5年12月に**ウェルビーイング指標の測定**に対応した
町民意識調査を実施

— ウエルビーイング指標とはどんなもの？

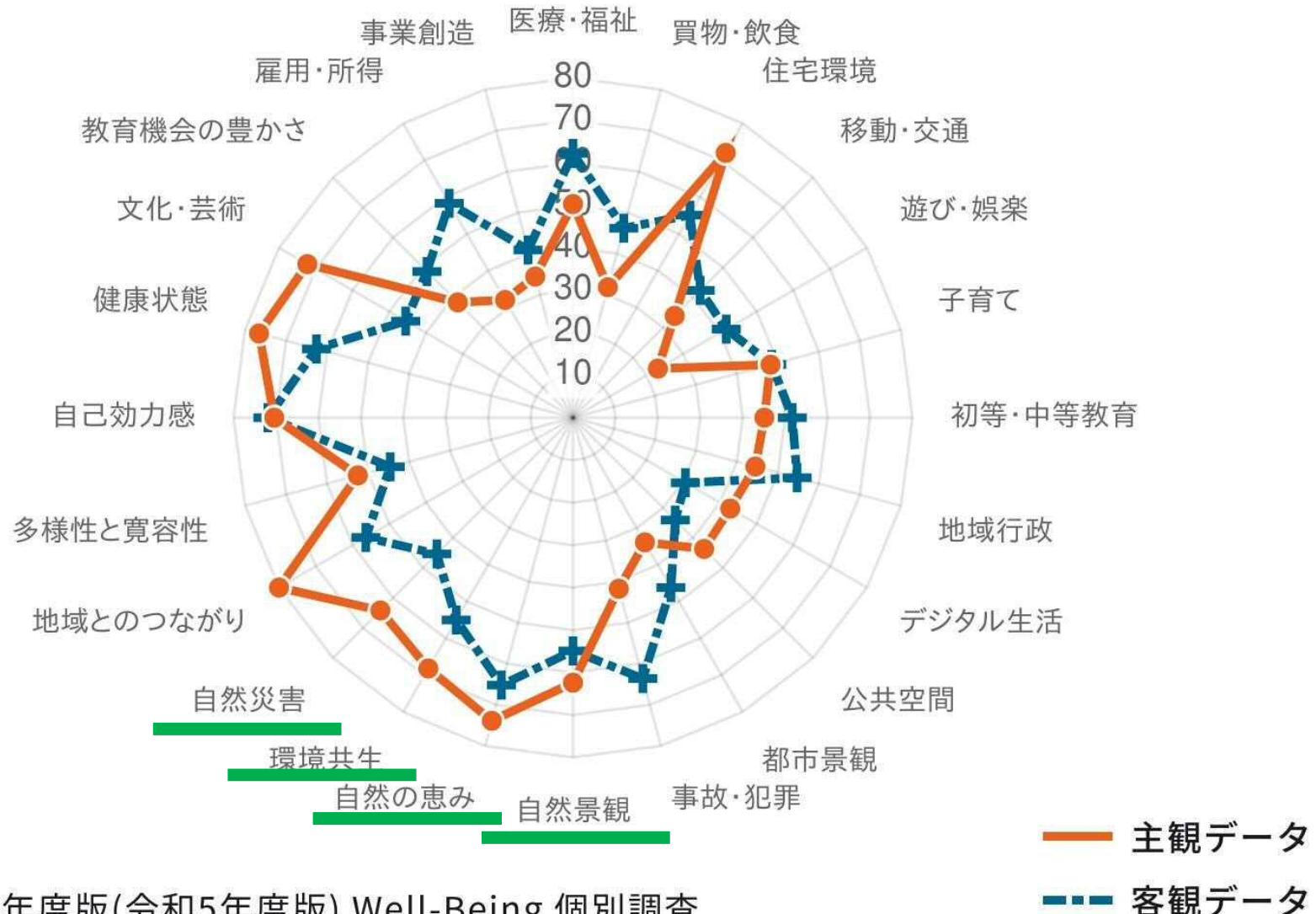
松川町の調査状況

- ◎ 調査対象…満18～89歳の住民から2,500人を無作為抽出
- ◎ 回答者数…1,033人(回答率41.3%)

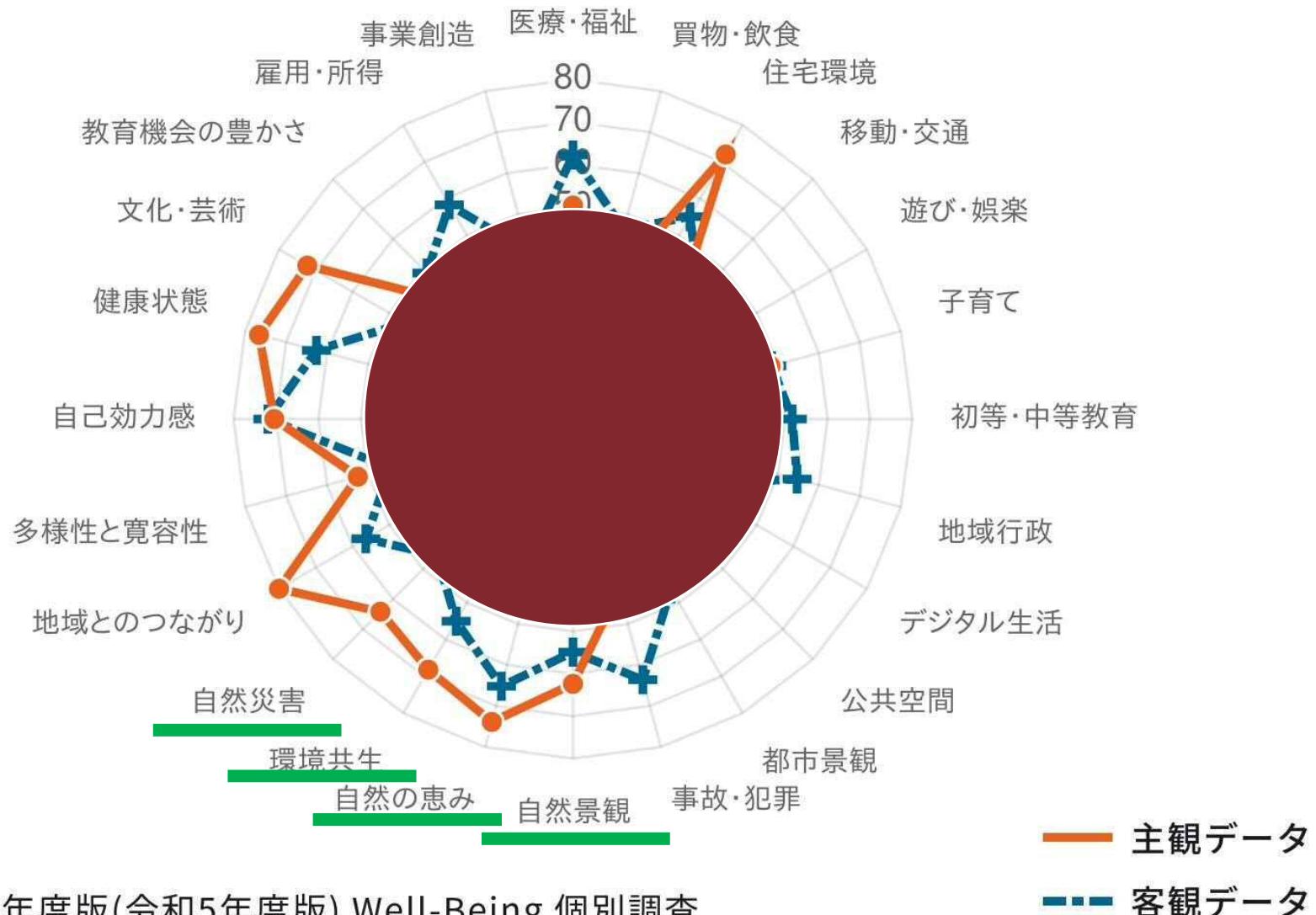
※ 松川町は「全国的にも取り組みが早い団体」に含まれる。

76／1,724市町村 (令和6年3月時点)

松川町の調査結果(24因子)



主観・客観とも偏差値50超の因子=松川町の強み



■ 環境基本計画に関連しそうな指標因子はどんなもの? ～アンケートではどのように聞いているか～

自然景観（主観62.4）

- ◎ 自慢できる自然景観がある

自然の恵み（主観73.9）

- ◎ 身近に自然を感じることができる
- ◎ 暮らしている地域の空気や水は澄んでいてきれいだと感じる

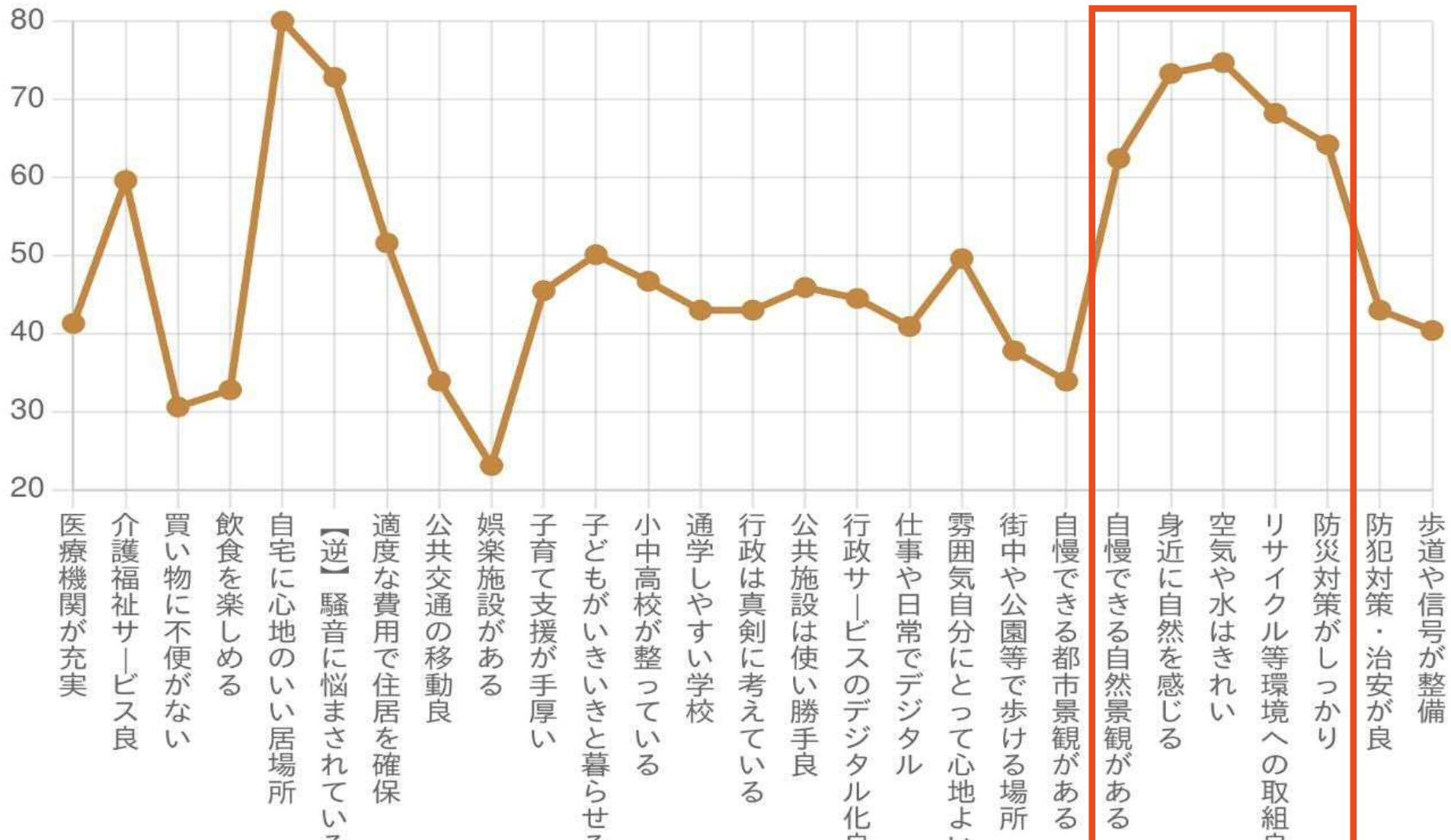
環境共生（主観68.2）

- ◎ リサイクルや再エネの活用等、環境への取り組みが盛んである

自然災害（主観64.2）

- ◎ 暮らしている地域では、防災対策がしっかりしている

生活環境



■ 環境基本計画に関連しそうな指標因子はどんなもの? ～客観的な指標として活用されているデータ～

自然景観（客観54.9）

自然景観指数

自然の恵み（客観65.2）

食料生産ポテンシャル、水供給ポテンシャル、木材供給ポテンシャル、炭素吸収量、蒸発散量、
地下水涵量、土壤流出防止量、窒素除去量、リン酸除去量、NO₂吸収量、SO₂吸収量、洪水調整量、
表層崩壊からの安全率、緑地へのアクセス度、水域へのアクセス度、オートキャンプ場への立地

環境共生（客観55.0）

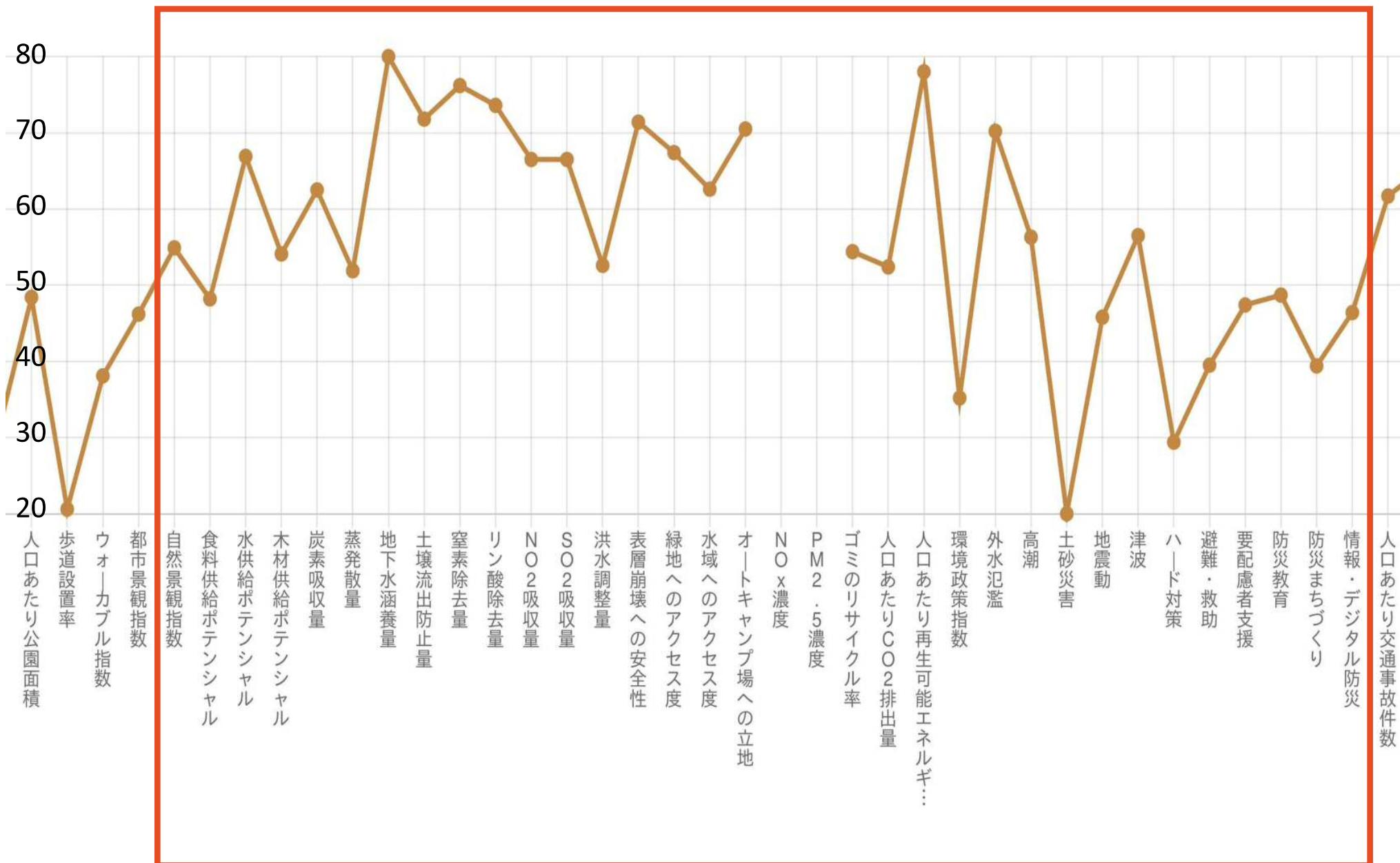
Nox平均値、PM2.5年平均値、ごみリサイクル率、人口あたり年間CO₂排出量

人口あたり再エネ発電量、環境政策指数

自然災害（客観45.4）

外水氾濫危険度、高潮危険度、土砂災害危険度、地震動危険度、津波危険度、ハード対策、
避難・救助、要配慮者支援、防災教育、防災まちづくり、情報・デジタル防災

生活環境



松川町の調査結果詳細

(デジタル庁のホームページで公開中)

下記QRコード or

「デジタル庁 ウェルビーイング指標」で検索



「1.ダッシュボードを見る」



「ダッシュボードを見る」



「個別調査」

「2023年度版」

「長野県」

「松川町」を選択

